

# 個人名の型と機能

清 海 節 子

## 1 はじめに

姓名は「家名」と「個人名」から成り立つと考え、いわゆるファーストネームと呼ばれる個人名の「型」と「機能」について検討することが本稿の目的である。「型」は、名付けに関連する動機や、名の意味、表記、音韻特徴等を表し、「機能」は、その名が実際に使用されることを指すと考える。

特定の言語や文化に限った中での名前の起源等についての研究や、辞典、姓名判断のための本が多くある一方で、さまざまな国や文化に見出される独特の名前の型や、機能に関する比較研究は、ほとんどされていない。その理由は、名前の型や機能は言語・文化の違いにかかわらず、多くの点で類似しているからであろう。また、言語によっては、名前の型が常に変化することが比較研究を困難にしている原因と言えるかもしれない。固有名詞である人名は、時代に強く束縛されるものである上、人に寿命がある限り、世代ごとによって変わって行く運命にある。

本稿では、日本語の個人名を中心に、型と機能について他の言語（文化）と比較する。限られたデータを基に、ある程度明らかになった「型」の特徴は次の通りである：1) 世界の言語で、個人名はおおよそ良い印象を与える名が多いが、悪霊に取り憑かれないようする等の目的で、不吉な名前をつけることもある。2) 個人名を受け継ぐ場合、祖父母の名を受け継ぐ傾向がある。3) 男女で、型の区別をする傾向がみられる。また、日本語の特徴は：1) 「文字」が重要な役割を果たしている。2) 音韻（モーラの長さ）では、男子の名の方が長い傾向はあるものの、文字数では、女子の名の方が多い傾向にある。さらに、「機能」については、言語・文化特有の個人名の制限の度合いによって、使用頻度の違いが理解できることを提案する。

宗教による名付けは、例えば、キリスト教にちなむ名前として、英語では、*Andrew*（スコットランドの守護聖人アンドリュー）、*George*（イギリスの守護聖人ジョージ）等の聖人名や、『聖書』に登場する使徒名の、*Matthew*（マタイ）、*Mark*（マルコ）、*Peter*（ペテロ）や、旧約聖書に登場する人物の名前（男性なら、*Samuel*, *David*, *Benjamin*, 女性なら、*Sarah*, *Susan Hannah* 等）がある<sup>2)</sup>。また、イスラム世界では、

男性では、予言者ムハンマドの名やその後継者のオマル、オスマーン、アリー等にあやかる名の方が圧倒的に多い。女性は、予言者ムハンマドの母か妻、娘たちに因んだ名であり、アーミナ、ハディーシャ、アーイシャ、ファアティマ等がある<sup>3)</sup>。このような宗教に因んだ名付けは、地域によって発音や形態等が変化はするが、世界の各地で認められる。本稿では、このように宗教に因む名前ではなく、特定の国やその文化に特有の個人名及び名付けの方法に焦点を当てる。

次節では、日本語に関する名付けの型を確認した後で、世界のさまざまな国の名付けの方法を紹介する。3節では、(i) 動物・植物に由来した名 (ii) 継名 (iii) 風変わり・不吉な名 (iv) 男女名の区別 という4点に絞って、日本語や、外国語の例をあげながら、共通する特徴を推測する。4節で、日本語の2004年度の名付けのデータに基づき、観察できる特徴や傾向を提示する。以上個人名の「型」について論じた後、5節では、個人名の「機能」について考え、日本、アメリカ、エスキモー、ホピ族との間で、個人名の使用頻度の違いを検討する。最後に、6節で結論が述べられる。

## 2 個人名の型<sup>4)</sup>

この節では、個人名の型について考察する。最初に、日本語について観察した後、3節で扱う特徴以外に注目し、2.2では、英語、アラビア語、イラン（ペルシャ語）、モンゴル語、フルベ人（セネガル）の順で、比較的詳しい説明を見ていく。2.3でスペイン語、アイヌ語、チベット語、中国語にみられる特徴を列挙する。2.4では、名の型に関する普遍的な特徴を述べる。

### 2.1 日本語にみられる個人名の特徴

まず、日本語における名前の特徴について考えてみよう。名前は、命名に関連する動機なしには存在しない。そこで現代日本人の人名について、森岡健二（1977: 237-8）の分類を取り上げることとする。森岡は、親が子供に命名する動機や意図として、5つの項目をあげ、その例を次のようにあげている<sup>5)</sup>。

#### (1) (i) 誕生を記念して

- ・生まれた月日・季節にちなむ名

例：「正一」（正月一日から） 「明子」（英語の 'May' から）

- ・土地にちなむ名

例：「富士男」（富士吉田生れ） 「利佳子」（アメリカ生れ）

- ・社会的事件にちなむ名<sup>6)</sup>

例：「範子」（海苔の豊年） 「ルナ」（月旅行）

(ii) 音声・文字の条件から

・響きの良い名

例：「行雄」「直哉」-呼びやすい、「美紀」-女らしく可愛らしい

・読み書きしやすい名 例：「まゆみ」

・字形・字づらの良い名

例：「ますみ」-女らしいひらがな

「宣雄」「英雄」-左右対称で落ち着きが良い

「清香」-字づらがきれい

・ローマ字で書いてもいい名

例：「まり江」-Marie 「真理」-Mary

・画数・字数を考えた名

例：姓名判断で画数を合わせたり，3字姓の場合に名を一文字にする

-「佐々木淳」「五十嵐純」

(iii) 意味から

・親の願いをこめた名

例：「健（たけし）」（丈夫に）「聡（さとし）」（賢く）

「直子」（すなおに）

・故事成句からの名

例：「葉子」（万葉集から）

・親の仕事にちなむ名

例：「彩（あや）」（画家） 「卓司」（新聞社デスク）

・姓との調和を考えた名

例：姓が「石井」なので，名は，水と関係のある「浩，淳，潤，治，洋子」から選ぶ。

(iv) 人にあやかるため

・尊敬する人にあやかる名

例：「旅人」（大伴旅人） 「靖」（井上靖）

・親族名から字をとった名<sup>7)</sup>

例：「宗賢（むねまさ）」（先祖の「賢丸（まさまる）」から）

(v) 兄弟の順序から

・呼び名系統の名 例：「剛一」「泰二」「元三」

・他の方法で順序を示した名例：「直美」「美佳」(しりとり)

以上、日本語における命名法の動機と意図は、次の5つの型として捉えられている：

1) 誕生記念 2) 音声・文字 3) 意味 4) 他の人名 5) 兄弟の順序。

さらに、森岡は、日本人の名は、音より文字に比重があることも指摘している。その理由は、普通の日本人は、同音の名でも同字でなければ、同じ名であるとは、意識しないからで、この現象は、注目すべきだと述べている。例えば、「ヨシオ」という音の漢字は、「義雄・芳夫・吉男…」等約700種、「キヨシ」は、「清・潔・清志…」約400種あり、それぞれが異なった名だと意識されていることになる。

森岡の観察から、どの動機が日本語に特有な特徴だと言えるだろうか。2.2の説明で明らかになるが、世界各国の名前について調べてみると、日本語の名付けの動機は、そのほとんどが、世界のどこかで見つけられる性質のものである。しかしながら、日本語独特であるとみなされるべき特徴がある。それは、森岡も指摘している通り、名付けに「文字」が大切な役割を果たしているということである。日本語の表記法は、漢字、平仮名、片仮名、ローマ字という4種類もの文字種を使用し、世界の言語の中でも際立って多い。さらに、日本語の音韻構造は、母音が5つで、子音が17<sup>8)</sup>で、世界の言語の中では、数が少ない方である。さらに、音節構造も比較的単純である。言い換えると、音素の数が少ない一方で、表記の種類が多いと言える。日本語の文字による名前の差別化は、これらの特質がある言語だからこそ実行可能なのだろう。

## 2.2 日本語以外の個人名の特徴

次に、個人名の特徴について十分な考察がされていると思われる英語、アラビア語、イラン(ペルシャ語)、モンゴル語、フルベ人(フラン語：セネガル)の5言語をこの順で紹介する。

### 2.2.1 英語

Crystal (2003: 150) は、英語の個人名を語源に基づき、以下のように、10に分類している。

- (2) i) 身体的特徴 例：*Kevin* (生まれた時、端正な顔立ち) *Maurice* (浅黒い肌をした) *Adam* (赤ら顔)
- ii) 時間、場所、行動に関連のあるもの 例：*Barbara* (外国人) *Francis* (フランス人) *George* (農夫)
- iii) 真の望ましい性質を表す 例：*Peter* (岩) *Agnes* (純粋な) *Hilary* (陽

気な)

- iv) 親の感情を表す 例: *Amy* (愛される) *Lucy* (光) *Benjamin* (右手の息子=幸運な息子)
- v) 作家の創作 例: *Miranda* (Shakespeare のテンペストに登場する:「感心されるに値する」の意)
- vi) ヘブライのエホバ等神を表す名称 例: *John Jonathan Josephine Gabriel*
- vii) 植物, 宝石, 他の自然物 例: *Susan* (ユリ) *Fern* (シダ) *Holly* (モチノキ)
- viii) 姓が個人名として (その多くは, 元来場所の名) 例: *Baron Beverley Maxwell*
- ix) 特別な言語構造 1) 接頭辞 De-, La- Sha-: 例: *Dejuan Ladonna Shakirra*,  
2) 女性名の接尾辞例: -ene, -ette, -elle, 等: 例 *Jolene, Marlene, Charlene*
- x) 起源がよくわからないもの 例: *Antony Arthur Belinda Mary*

その他の英語の名の特徴として, 多彩な愛称<sup>9)</sup> の存在があげられる。例えば, ‘*Elizabeth*’ の愛称は, ‘*Liz*’, ‘*Eliza*’, ‘*Elise*’, ‘*Betty*’ 等があり, ‘*James*’ は, ‘*Jimmy*’ と ‘*Jim*’, ‘*William*’ は, ‘*Bill*’ が愛称である。さらに, 英米人は, 自分と同じ名を子どもにつけることがある。アメリカの場合は, 名の最後に ‘*Junior*’, ‘*Senior*’ と付けることで, (3) のように区別する。

(3) *John F. Kennedy Senior* (父親), *John F. Kennedy Junior* (息子)

## 2.2.2 アラビア語

アラビア語の人名には, 姓はない。個人名と男性の家系の名で成り立っている。例えば, ムハンマド・アリー・ハサンというのは, 個人名がムハンマドで, アリーは, 父の名で, 祖父の名はハサンである。圧倒的に多い名は, 予言者ムハンマドにあやかる名である。また, 好ましいと思われる意味に因んだ名 (例: [美] ジャマール, [壮麗] バッハー, [名誉] シャラブ) や, 出身地に因んだ名 (例: シャルカーウィ) も多い。また, 99 種類のアッラーの形容辞にアブド [下僕] が, 付いたもの (例: アブドハミード) も多い。

泉沢 (1994: 217-8)によると, アラブでは, 厳しい自然環境や, 保健衛生状態が劣悪であり, むかしから乳幼児の死亡率が高い。今でも 5 人に一人が 5 歳にならない

ちに死亡すると言われている。そこで、名前には、[生きている] (ハッヤー、または、アーイシュ) という動詞からの派生語 (ヤヒヤー、ヤイーシュ、アイーシャ) を使うことが多い。

また、女子より男子の誕生を喜ぶので、女子ばかりが続けて生まれると、キフアーヤ [十分], ハーディマ [終了], ハッディー [留子] と名付けたりする。イスラム教に基づかない、一般的な女性の名は、女性らしさや、美しさを表す、ワルダ [バラ], ヤマミーナ [ジャスミン], ズフラ [ビーナス] 等も一般的で、以前は、女奴隷のみにつけられた、高価な宝石にちなんだルールー [真珠], アルマース [ダイヤモンド], ゴーハル [宝石] 等も、現在普通に使用されている。

### 2.2.3 イラン

鈴木均 (1994) は、1990 年のルーダーバール大地震の際に、イラン国内の主要各新聞に掲載された「国内各病院に収容された地震罹災者名リスト」に基づき、最近数十年の名付けの変遷をある程度追跡できると述べている。まず、鈴木は、イラン人名を大きく「主にイスラム教に因んだ宗教的な名付け」と「ペルシャ語的、イラン的な」に、二分化している。後者はさらに次の 6 つに細分化される。

- (4) i) 神話、伝説上の名： アラブ征服以前から伝わるイラン神話・伝記
- ii) 歴史、暦に関わる名： 男性名でイラン的とされる名
- iii) 植物、花に関わる名： 女性名が圧倒的に多い 例：「水仙」「すみれ」「チューリップ」
- iv) 動物、虫に関わる：
  - 男) ジャーヒー (ハヤブサ), シールアリー (獅子のアリー)
  - 女) パルヴァーネ (蝶), サダフ (貝)
- v) 天体に関わる名： 男) ケイヴァーン (土星), シャハーブ (流星)  
女) ソライヤー (すばる), ナーヒード (金星)
- vi) 幸福にまつわる名

### 2.2.4 モンゴル語

モンゴルには、姓がない。公式な文書等に記入する時は、「父親の名『の』個人名」というように「の」を入れる。男の子の名前でよく使われる名は、ゾリグ [勇気], ボルド [鋼鉄], バータル [英雄] である一方で、女の子の名は、ツェツェグ [花] か、その組み合わせ ([太陽の花], [ひまわり], [月の花]) が代表的である。

最も人気のある名は、日本と同じように、良いイメージを伴うバートル [英雄], ゴリック [たけし], ボヤン [幸], バヤル [喜び] 等のように、良いイメージの語を利用することが多いが、悪魔が寄り付かないようなおまじないのような意味で、ネルグイ [名無し] やビージン [私じゃない] がある。

鈴木裕子 (1994: 78-81) は、モンゴルの名付けの構造を、(5) のように 10 の型に分類している。

- (5) i) 健康, 長寿, 幸福を祈って 例: バト [丈夫, 堅い], ムンフ [永恒], ヒシグ [吉], ウルズイ [福壽]
- ii) 出生時の記念すべき出来事や状況にちなんで
- iii) 強い動物の名を命名 例: ブルグト [わし] アルスラン [獅子]
- iv) 日常よく使うもの, 道具や, 家具名  
例: トウムル [鉄] ゴルド [鋼] トゴー [鍋] スフ [斧]
- v) 宇宙や, 自然現象  
例: ナラン [太陽] サラン [月] オドン [星] ソロンゴ [虹]
- vi) 動詞の原形や, 形容詞 例: バドラフ [繁栄する] マンダフ [上昇する]  
ブリヤ [堂々とたくましい] セルゲレン [賢い]
- vii) チベット語や梵語から 例: マイダル (サンスクリット語で, マイトレヤ [弥勒菩薩の「弥勒」の意])<sup>10)</sup>
- viii) 中国語の影響を受けた名
- ix) 時代の発展に伴い意欲的な意味の名 例: エンフ [太平]  
オヨーン [知恵] ショドラガ [正義]
- x) ユニークな名: 名前負けしないような病気にかかりにくいように  
例: ネルグイ [名がない] = ネル [名字] + グイ [ない]  
エネビシ [これではない] = エネ [これ] + ビシ [ではない]  
フンビシ [人ではない] = フン [人] + ビシ [ではない]

## 2.2.5 フルベ人

小川 (1997:53) は、西アフリカのセネガルの牛牧畜民フルベ人の中でも、西端のセネガルに住むフルベ・ジェンゲルベの人々による個人名の伝統的な命名法を次のように 5 つのカテゴリーに大別している。

- (6) i) 出生順に定められた名: 第一子は、男女ともに同名である ディッコ  
第二子以降は、男女の性別を明示する名

- ii) 親の願望 (死なないでほしい願望から 2 通りの方法で意味が与えられる):
  - ・ 正攻法 -----[年寄り] [捨てられない]
  - ・ 背理法 -----[憎まれもの] [拒否されたもの] [名前がない, 名無し]
- iii) 出生時の個人の具体的特質にもとづく名: [肌が赤い] [肌が枯れ木のようにかさついた]
- iv) イスラム名 (一番多い)
- v) 親の友人からのもらい名

## 2.3 その他

### スペイン語

カトリックが多いので、聖人の名をつける習慣がある。毎日が必ずいずれかの聖人の祝日、生まれた日かそれに近い聖人名をつける。人気がある聖人名は限られている上、親が名を創造する習慣がないので同名が多くなる。そこで、洗礼名を 2 つ以上連ねることがある。例えば、*María* は、ありふれているために、*María Elena*, *María Teresa* 等、別の名を重ねたりする。

### アイヌ語

あまり良い名をつけない。また、他人と似た名前をつけない。それは、魔物が人に災いを及ぼすとき、名によって識別すると考えられて、別の人にいくはずの災いが、その人の名前が似ていると自分にふりかかるかもしれないと信じられているからである。そこで、ジョン、メリー、太郎等典型的な名は存在しない。

### チベット語

子供が生まれた日の曜日そのまま使用する。例えば、[水曜日] ('sa -hlakpa) に生まれた子は、-*hlakpa* (ラクパ) と名付けられる。神仏名を付ける時は、男には、男神、女には女神の名を用いる。また、縁起の良い意味をもつ名: 例えば、'*sonam* (ソナム) [福德], '*jingmii* (ジンミー) [壊れることがない], '*chimii* (チミー) [死ぬ事がない] 等もある。

### 中国語

個人名は 2 字が多数であり 3 字の名はない。近年漢字 1 字が流行して、同姓同名が多くなっているので、「老-」、「小-」をつけて区別する。人名漢字の制限はなく、使用漢字は約 3000 字である。使用頻度は、英 (イン)、華 (ホワ)、玉 (ユイ)、秀 (シイウ)、明 (ミン) の順である。



## 2.4 まとめ

日本語の名付けの型を見た後、英語、アラビア語、イラン（ペルシャ語）、モンゴル語、フルベ人（セネガル）等の型を紹介した。限られたデータであるが、日本語にあって、他の言語にない特徴は、2.1 で述べたように「文字」に比重が置かれる点である。逆に、日本語にない特徴は、複数ある（例：モンゴル語の動詞や形容詞がそのまま名になる）が、その中でも、モンゴル語、フルベ人、アイヌ人に不吉な名付けが存在することは留意すべきである。しかし、名の型に関する普遍的な特徴としては、「子が幸福になるような縁起の良い名」を付けることが候補となるだろう。その理由は、アイヌ語を除く言語では、縁起の良い印象を与える名付けがされているからである。この点で、アイヌ語の名付けは、特殊と考えられるかもしれない。

## 3 顕著な型

この節では、名前の型に顕著な4つの特徴のそれぞれについて、異なった言語・文化を通して、共通の性質を探す試みをする。最初に動物・植物に由来した名を主に日本語で考察した後、名を受け継ぐ習慣について検討する。次に、奇妙な名、または不吉な名が現在使用されている言語・文化を紹介する。最後に男女の区別について考える。

### 3.1 動物・植物に由来した個人名

寿岳（1979：190）によると、江戸時代は、男女ともに動物の名が多くみられたと言う。しかし現代の個人名は、植物名はあるが、動物名はほとんどみつからない。最初に、江戸時代の名前を見ることにする。寿岳（1979：190-91）は、江戸時代天保八年（1837年）から慶応元年まで（1865年）の28年間に亀岡馬路村の宗門改人別帳で見つけられた女性の名前を次のように挙げている。

(7)	うの	はる	むめ	うた	まつ	ぬい	なを	とめ	くま
	ちよ	かめ	とみ	しげ	すて	いと	つる	とき	まさ
	いそ	こと	いし	つや	みよ	きく	きよ	とよ	たけ
	ふさ	もと	いさ	なか	やえ	いよ	さと	てる	くに
	りう	いわ	くり	たつ	とら	ひさ	いち	この	しか
	すゑ	その	とせ	ふち	くめ	さよ			

(7) から分かるように、動物名が顕著である。「くま」「かめ」「つる」「りう」「たつ」「とら」「しか」と女性のイメージとはかけ離れた動物の名が使用されている。これ

らの動物の中で、現在では「千鶴」(ちづる) などはあるだろうが、それ以外の動物名が使用されることは、まずないであろう。植物名の数は、「うめ」「きく」「まつ」「たけ」等で動物名と比べると少ないことが分かる。ところが、明治安田生命の、2004年度『名前ベスト100』<sup>11)</sup>を参考にすると、(8)のように女の子の名付けには、植物名や草木に関連する漢字が含まれた名前が多くみつかるといえる。

(8) さくら 花 花音 百花 彩花 桃花 萌花 優花 愛華  
 美桜 愛実 愛菜 里桜 玲菜 菜月 萌香 みずき 日菜  
 春花 里菜 優芽 菜々 菜々美 菜央 芽依 萌々香

また、男の子の2004年度『名前ベスト100』の中で、動物名は、「駿」<sup>12)</sup>だけである。ところが、「蓮(れん)」「葵」「楓」「柊」等、発音だけでは植物であると判断できないものもあるが、植物に関連する漢字の名前の方が、動物名より多く使用されている。

以上のように、江戸時代と現在と比較して言える最近の傾向は、動物は名付け用語とする習慣が急速に衰え、対照的に植物名を使用する頻度が上昇したことであろう。これに関して、寿岳は、「はげしく動きまわるなまなましい生きものよりは、静的なただうつくしいものへの憧れ、それはひよわなと言ってもいい現代人の精神の投影かもしれない(寿岳 1979:192)。と、現代人の意識が名付けに投影されていると示唆している。

ところで、日本以外では、子供の名付けに、動物名と植物名はどちらが好まれるのであろうか。それぞれの文化、地域によって違っていると推測してよいだろう。例えばモンゴル語では、植物名は滅多にないが、ウネグ[キツネ]、ノホイ[イヌ]、バーブカイ[クマ]、ハリョーン[かわうそ]等、動物からつけられる名はさまざまあるという(田中 1996:184)。また、2.2.3で紹介したように、イラン(ペルシャ語)では、植物や花にまつわる名は男性名にもあるが、女性名の方が圧倒的に多いとのことである。また、動物や虫にまつわる名は、男性名では、シャーヒーニ[ハヤブサ]、シールアリー[獅子のアリー] ジャヴァーンシール[若獅子]があり、女性名では、パルヴァシーネ[蝶]、サダフ[貝]等があるという。また、アラブ諸国では、伝統的に男性の名には、次のように勇敢な動物の名をつけたものが多い(泉沢 1994:217-89)。

(9) シリアの アサド[ライオン] 大統領

サウジアラビアの ファハド[ヒョウ] 国王

### 3.2 個人名の受け継ぎ

次に、個人名の受け継ぎで、誰の名が引き継がれるかを調べてみよう。以下に示す

ように、複数の異なる国々の習慣から、受け継ぐ名前の普遍的な傾向は、祖父母の名であると言えるだろう。

#### イタリア

ナポリを中心とした南部イタリアでは、長男には祖父の名を、長女には祖母の名を付ける（梅田 2000:352）。

#### ギリシャ

長男には、父からの祖父から名前をつけ、長女には、父からの祖母から名前をつけることが習慣になっている。

#### バスク

昔から父母、祖父、祖母、おじ、おばの名を子どもに命名する。そこで、家族に同名の人が複数いることもよくある。

#### ハンガリー

親や近親者の名を付けることが多い。

#### エスキモー

新生児は最近亡くなった人の名前に因んで命名する。しかし、村から離れた場所で生まれた場合は、出産後、母親の目に最初に映った自然物の名をつける。名前は、その人間とむすびついて一種の霊あるいは生命力とみなされる。新生児は、亡くなった人の名前を付けられることで、その人の力と性質を引き継ぐと考えられる。地域によっては、一人の人間が二つ以上の名前をもつこともあり、複数の故人の特性を引き継ぐと考えられる。（宮岡 1987:172-3）

#### ケニア

宗教に基づかない名付けで多いのは、生存、死亡に関係なく祖父母の名をもらう。

- ・ルオ族では、赤ん坊が泣くと、名が気に入らない証拠だとし、父は、占い師に、祖先の名を順番に言って良い名を選んでもらう。
- ・キクユ族も一般に祖父母の名をもらう。第一子が男なら、父方の祖父、女なら父方の祖母からもらう。父方が終われば母方の祖父母に移る。従って、子どもが男女2人づついれば、両方の祖父母の名が継がれる。
- ・グシイ族で一番多い名付けは、父方の家系の中で、最近亡くなった人の名前をもらう。男の子は、男性から、女の子は、女性から受け継ぐのかふつうである。（丹埜 1994）

### 3.3 風変わりな名・不吉な名

日本では、一般的に不吉で、不快や不浄な感じを与える名や、縁起の悪い印象の名は避けられる<sup>13)</sup>。しかし、現在、不快であったり、不吉な感じを伴う名前を付ける言語・文化がある。それらの例を以下に挙げることにする。

#### アラビア語

悪霊や、邪視（羨望をもつまなざしに凝視されると厄難が起きるという俗信）の存在が伝統的に信じられているので、魔除けのために、[死んでいる]という意味のナムート、タムートをつけたり、悪霊が恐れる名として、ムッル[若い]、カルブ[犬]、ハルブ[戦争]がある。エジプトやイラクでは、やっと授かった男の子に、クーリー[ティーポット]、ズバーラ[ゴミ]、ジュラ[糞]といった風変わりなものや不快な名をつけ、大きくなるまで、女の子の服を着させる。(泉沢 1994:217-8)

#### モンゴル語

2.2.4 で紹介したが、名前負けしないように、病気にかかりにくいように、また、悪魔がよりつかないようなおまじないのような意味で、次の名前がある。

(10) ネルグイ = [名無し] (ネル[名字] + グイ[ない])

エネビシ = [これではない] (エネ [これ] + ビシ [ではない])

フンビシ = [人ではない] (フン (人) + ビシ [ではない])

田中 (1996:190) は、統計はないが、ネルグイ[名無し]さんは、モンゴルの全人口の 2~3%は、いるかもしれないと述べている。別の例として、テレビシ[あれじゃない]、ヘンチビシ[誰でもない] (ヘン[誰] + チ[でも])、バースト[糞]、チョットグル[悪魔]も挙げている。

#### アイヌ語

アイヌでの名付けの原則は、あまり良い名を付けないことである。それは、あまり良い名をつけると名の力に負けて早死にすると考えられているからである。日本人から見ると名前としてふさわしくないようなものがある。極端な例として、女性で、兄弟がすべて幼く死亡したために、‘Turusno’ (トゥルスノ) という名がつけられた。この名は、[垢だらけ] (tur [垢] + us [ついている] + no [強調]) という意味である。アイヌ人は、魔物は美しいものが好きで、きたないものが嫌だと考えられている。

#### チベット語

流産、死産が続くと、魔物の仕業だとみなし、次の子には故意に ‘khikyaa (キキヤー) [犬の糞]というような汚い名前をつけ魔物が近寄らないようにする。

#### トルコ語

悪霊に取り憑かれないように、チルキン [醜い] とあえて悪い名前を付けることもある。

### 3.4 男女の差について

多くの言語・文化では、明確とは言えないまでも個人名によって男女が区別できるように、男性、女性それぞれに、独自の型があって区別する工夫が認められる。例えば、日本語でも、男女の名の型に決定的ではないが、相違がみられ、使用される漢字や、音節の長さに男女でいくらか特徴がある。また、女名には、ひらがなが使用されることがあるという表記の点での違いもある。この特性を早津 (1998: 221) は、(11) のように簡潔に説明している。

(11) (i) 使用される漢字に男女でいくらか特徴がある。

男名：「一彦，一郎，一夫，一雄，一男，一助，一介，一吉，一太」

女名：「一子，一江，一代，一恵，一枝」

(ii) 男名は，3~6 音節，女名は，2~3 音節がほとんど。

(iii) 女名はひらがなで表すものもある。

他の例として、タイ語では、意味や音感で男女の別がある。

(12) 男性の名前

ナロン [戦い] ウィチャイ [勝利] パイロット [光輝く] クリサダー [成就者]

女性の名前

レーヌー [花粉] ノンヤオ [乙女] プリヤー [愛しい] カラヤーニー [美女]

また、モンゴル語 (鈴木裕子 1994) では、日本語ほどの区別はないが、(13) で分かるように、男女共通の名もあるが、意味上から男女それぞれにふさわしい名が自然に区別されている。

(13) 男女共通：[木曜] [知恵] [長寿] [豊富]

女性：[仙女] [花]

男性：[鋼] [斧]

しかしながら、男女の区別がほとんどされていない言語もあるようだ。例えば、チベットは、名の男女別はほとんどないと言う (八巻 1994:62)。同様に、中国でも、名から男女を区別することは難しいが、女へん、草かんむり、玉へんの漢字が使用されているなら、女性である可能性が高いということである。

### 3.5 まとめ

最初に、動物と植物に由来した名付けでは、どちらが好まれるかを検討した。日本の最近の傾向は、植物に関連する名付けが多くなっているが、他の言語・文化では、それぞれ傾向が違うと考えられる。次に名を受け継ぐ習慣については、祖父母から引き継ぐ傾向がみられた。また、奇妙であったり不吉である名は、現在でもアラビア語やモンゴル語等で、見つけられるが、その動機は、魔除けのためである。最後に、名前の男女差に関しては、多くの言語で明確ではないが、何らかの方法で、区別をつける傾向があると推測された。

## 4 日本語の個人名の最近の傾向

この節では、明治安田生命が調査した『名前ランキング 2004』から得られるデータを参考にして、最近の日本語の個人名の文字特徴と音韻特徴を考察する。最後にイングランドとウェールズの個人名の型の変化について調べ、日本語と比べる。

本論に入る前に、森岡 (1977:238) が、好まれている名付けの傾向として指摘している(14)の5点を『名前ランキング 2004』の中の『生まれ年別名前ベスト 10』のデータと比較してみたい。

- (14) (i) 漢字一字の名
- (ii) 万葉がな
- (iii) 「子」のつかない名
- (iv) 仮名書き
- (v) 特別の意味を持たない漢字

森岡が(14)を指摘して、約四分の一世紀が経つが、以上5つの傾向は依然として続いている。これに関して、2,3点指摘しておきたいことがある。まず漢字一字の名についてであるが、男性に限って調べてみると興味深い事が分かる。1912年生まれから2004年生まれのデータで上位10位の名前を参照すると、漢字一文字の名は、大正後期から昭和40年ぐらいまでに生まれた男性が、最近誕生した男の子の名前より多い事が分かる。それに反して女性は逆で、森岡が指摘している時期に漢字一文字が登場し始めたと考えられ、現在でもある程度認められる。また、「子」のつかない女の子の名は、近年では傾向というより一般的になってきている。最後に、仮名書きの傾向は、男性にはみられず、女性名の特徴だと考えられるが、この傾向は、大正初期にもあったようで、大正4年生まれの女性では上位10位のうち3人(きよ、きみ、はる)が見つかる。

#### 4.1 上位 10 位

明治安田生命の調査を参考にし、2004 年生れの個人名の音韻特徴と文字の特徴を探してみる。最初に、『名前ランキング 2004』中から『名前ベスト 100』と『名前の読み方ベスト 50』から上位 10 位を紹介しよう。

(15) 名前ベスト 10 位まで<sup>14)</sup>：

男の子 1 位：蓮 2 位：颯太 3 位：翔太, 拓海 5 位：大翔  
 6 位：颯 7 位：翔, 優斗, 陸 10 位：翼  
 女の子 1 位：さくら, 美咲 3 位：凜 4 位：陽菜 5 位：七海, 未来  
 7 位：花音 8 位：葵 9 位：結衣 10 位：百花, ひなた

(16) 名前の読み方ベスト 10 位まで：

男の子 1 位：ユウキ 2 位：ユウト 3 位：ハルト 4 位：ソウタ  
 5 位：コウキ 6 位：タクミ 7 位：コウタ 8 位：リョウタ  
 9 位：ハルキ 10 位：カイト, リク  
 女の子 1 位：モモカ 2 位：ハルカ 3 位：アヤカ 4 位：ミサキ  
 5 位：サクラ 6 位：ナナミ 7 位：ユイ 8 位：ヒナ  
 9 位：リン 10 位：ハルナ, ホノカ

#### 4.2 文字特徴

最初に、文字の種類に関して男女が異なる特徴に注目して調べてみよう。2004 年の『名前ベスト 100』に使用されている文字を観察すると、男女それぞれ次のような特色が認められた<sup>15)</sup>。

(17) 女の子の名前だけに、ひらがなが使われている (107 例中 6 例)：

さくら (第 1 位) ひなた (第 10 位) こころ (第 25 位)  
 くるみ (第 43 位) ほのか (第 61 位) みずき (第 82 位)

(18) 男の子だけにみられる漢字：

「太」(15 例), 「大」(12 例), 「斗」(11 例), 「人」(5 例), 「一」(4 例)

(19) 女の子だけにみられる漢字：

「美」(12 例), 「愛」(12 例), 「菜」(15 例), 「花」(9 例), 「音」(5 例),  
 「々」<sup>16)</sup> (5 例), 「乃」(4 例)

男女共通して用いられる漢字二文字とその例数は次の通りである。

(10) 男女共通にみられる漢字：「優」(男：7 例, 女 8 例)

「陽」(男：7 例, 女 2 例)

### 4.3 音韻特徴

次に、音韻的な面から男女の名の性質を探る。2004年の『読み方ベスト50』のデータを基にして音韻特徴を考えてみる。名前のモーラ（音節）を調べると、次のことが言える。男の子の読み方ベストの読み方を観察すると、1モーラから6モーラまでの名前の数を調べると次のようになる。

(20) 1モーラ ----- 0

2モーラ ----- 9 例： リク (10位) リョウ (17位) レン (18位)

3モーラ ----- 35 例： ユウキ (1位) ユウト (2位) ハルト (3位)

4モーラ ----- 5 例： リュウセイ (22位) コウスケ (23位)  
コウセイ (24位)

5モーラ ----- 1 例： シンノスケ (46位)

6モーラ ----- 0

以上から、2～5モーラまであり、3モーラの名前が一番多く、1モーラまたは、6モーラ以上は、見つからない。それでは、女の子の名前はどうか。女の子の『読み方ベスト50』には、同位が複数というものがあり、全部で55種類の読み方がある。そのモーラ数に対する名前の総数は、(21)に挙げる通りである。

(21) 1モーラ ----- 0

2モーラ ----- 25 例： ユイ (7位), ヒナ (8位), リン (9位)

3モーラ ----- 30 例： モモカ (1位), ハルカ (2位), アヤカ (3位)

4モーラ ----- 0

5モーラ ----- 0

(21)を(20)と比較すると、女の子の名前は、男の子の名前とは、かなり違うことが分かる。1モーラの名前がないことは、同じであるが、4, 5モーラが見つからず、2モーラと3モーラの2種しか存在しない。

### 4.4 日本人の個人名の型の変化

寿岳によると、日本人の人名は、型の意識が濃厚であると言う。寿岳 (1979: 185-86) は、二十歳前後の人に祖父母の世代、親の世代、自分の世代の親戚の人たちの名前を尋ねることで、次のような世代別の比較をしている。このデータは、およそ25年前にされたと推定されるので、次の(22), (23)の「本人」に当たる人は、現在45歳前後の人々（昭和35年前後生まれ）、「父母」は、70歳前後（昭和初期生まれ）、「祖父母」は95歳前後（明治末期から大正初期生まれ）の人々を指すと考えられる。



(22) 男の名：

- (i) 最後に「郎」がつくもの --- 祖父 (33%)    父 (6%)    本人 (2%)
- (ii) 最後に数字がつくもの --- 祖父 (26%)    父 (19%)    本人 (9%)
- (iii) 最後に「松」がつくもの --- 祖父 (11%)    父 (0%)    本人 (0%)
- (iv) 最後に「夫」「雄」「男」がつくもの --- 祖父 (0%)    父 (24%)    本人 (14%)
- (v) 漢字一字のもの --- 祖父 (0%)    父 (13%)    本人 (18%)

(23) 女の名：

- (i) 片仮名の名 --- 祖母 (13%)    母 (3.7%)    本人 (0%)
- (ii) 平仮名の名 --- 祖母 (56%)    母 (5%)    本人 (4%)
- (iii) 最後に「子」がつくもの --- 祖母 (16%)    母 (67.5%)    本人 (72%)

寿岳は、この 100 年の間の変化は、顕著であると述べているが、このデータを 2004 年の『名前ベスト 100』の割合と比べてみよう。2004 年度の男の名については、次のような結果になる。

- (24) (i) 最後に「郎」がつくもの --- 0%
- (ii) 最後に数字がつくもの --- 1%    1 例：太一 (45 位)
- (iii) 最後に「松」がつくもの --- 0%
- (iv) 最後に「夫」「雄」「男」がつくもの --- 0%
- (v) 漢字一字のもの --- 29%

以上のように、男の子の名前の最後にくる漢字は、かろうじて、数字がつくものが 1 例見つかったに留まった。2004 年度の傾向として、名の最後に「太」「斗」「人」「大」がつくものが顕著である。さらに、漢字一文字の名前と二文字の名前も多い。これらの割合を調べると、(25)のようになる。

- (25) (i) 最後に「太」がつくもの --- 13%
- (ii) 最後に「斗」がつくもの --- 11%
- (iii) 最後に「人」がつくもの --- 5%
- (iv) 最後に「大」がつくもの --- 3%
- (v) 漢字一文字のもの --- 29%
- (vi) 漢字二文字のもの --- 69%

次に (23) のデータと 2004 年に女の子に付けられた名の割合を比べてみよう。2004 年の女の子の名を調べると、次のようになる。

(26) 女の名：

- (i) 片仮名の名 --- 0%

(ii) 平仮名の名 --- 5% (6 例)

(iii) 最後に「子」がつくもの --- 1% (1 例: 莉子 (33 位))

(26) から、女の子の名前は、特に最後に「子」がつく名の減り方が顕著だとわかる。片仮名の名は一つもないが、平仮名は、僅かながら、割合が増加していることが指摘されるべきだろう。しかし 2004 年での特徴として、男の子と同様に、漢字が一文字か二文字の名前が多いということになる。(27) は、2004 年度の女の子の割合を示している。

(27) (i) 漢字一文字のもの --- 15% (16 例)

(ii) 漢字二文字のもの --- 76% (81 例)

結果を比べると、漢字一文字の比率に関して、男子の方が多くことは、興味深い。以上から、音韻（モーラの長さ）では、男子の名の方が長い傾向はあるものの、文字数では、女子の名の方が多い。それは、漢字一文字の名に限ると、男子名が女子名より約 2 倍多いからである。漢字二文字の名は男女でほぼ同じ比率だと考えられ、文字数では男子の方が少ない傾向にあると言えるだろう。

#### 4.5 イングランドとウェールズの個人名の型の変化

英語の型と比べてみよう。ここでは、Crystal (2003:151) のデータを参考に、イングランドとウェールズの男性名と女性名の上位 5 位までの名に絞って調べてみる。300 年間にわたる変遷を知るために、1700 年、1800 年、1900 年、1950 年、1970 年代中頃、そして、1990 年代中頃の 6 つの時期についての女性名と男性名それぞれのリストを作ってみると、(28) と (29) になる。

##### (28) 女性名

1700 年	1800 年	1900 年	1950 年	1970 年代中頃	1990 年代中頃
Mary	Mary	Florence	Susan	Claire	Rebecca
Elizabeth	Ann	Mary	Linda	Sarah	Amy
Ann	Elizabeth	Alice	Christine	Nicola	Sophie
Sarah	Sarah	Annie	Margaret	Emma	Charlotte
Jane	Jane	Elsie	Carol	Joanne	Laura

##### (29) 男性名

1700 年	1800 年	1900 年	1950 年	1970 年代中頃	1990 年代中頃
John	William	William	David	Stephen	Daniel
William	John	John	John	Mark	Thomas

<i>Thomas</i>	<i>Thomas</i>	<i>George</i>	<i>Peter</i>	<i>Paul</i>	<i>Matthew</i>
<i>Richard</i>	<i>James</i>	<i>Thomas</i>	<i>Michael</i>	<i>Andrew</i>	<i>Joshua</i>
<i>James</i>	<i>George</i>	<i>Charles</i>	<i>Alan</i>	<i>David</i>	<i>Adam</i>

以上の限られたデータからではあるが、18世紀から19世紀にかけて、女性、男性ともに、ほとんど変化がなかったことが分かる。また、このリストから女性名は1~4音節のどれかであるが、2音節が一番多い。4音節の名前は、女性名に *Elizabeth* があるが、男性名（Crystal が挙げている全部のリストの中）には見つからない。3音節の名前は、(28)で、*Christine, Margaret, Rebecca* がある上、リスト全体では、*Deborah, Jacqueline, Patricia, Amanda, Victoria* 等見つけるのに苦労はしない。ところが、男性名には (29)で *Frederick, Christopher* がみつかるだけである。男性の名で一番多い音節は、女性と同様に2音節であるが、女性名に比べて1音節の名前が多いようだ。例えば、最近の名前で上位10位に入っているものでは、*Mark, Paul, Luke* 等があり、女性名の約2倍の数が認められる。従って、音節の長さでは、日本の名の特徴（男子の名の方が長い傾向がある）とは、逆の傾向があると言えるかもしれない。つまり、イングランドとウェールズの個人名は、女性名の方が男性名に比べて、音韻的に長い傾向があると推測できる<sup>17)</sup>。

## 4.6 まとめ

4.1~4.4で、最近の日本語の個人名の傾向を調査し、音韻の点では、男子の方が長い名が多く、文字数の点では、女子の名の方が長い傾向が認められた。4.5では、イングランドとウェールズの個人名の300年の変遷を限られたデータから判断し、音韻に関して言えることは、日本とは逆の傾向、つまり、男性の名は、女性の名より音韻的に短いという傾向が推測された。

## 5 個人名の機能

これまで、個人名の型、つまり、その名の成り立ち、意味・音韻等について検討してきた。ここでは、個人名そのものの性質から離れて、その機能について論じる。特に、実際の日常生活で、どのような頻度で使われるかについて考えてみたい。

### 5.1 アメリカと日本の差

最初にアメリカと日本における個人名の使用について比較し、その違いを明らかにしていく。パン (1982:78) は、日本とアメリカの名前の使用方法の相違点を2点あげて

いる。第一点は、初対面で自己紹介する時の名前の使い方である。(30)のように、アメリカでは、4通りの可能性があるが、日本では、2通りだけが許される。

(30) (i) 個人名だけ： 例) “I am Wendy.” 「\*幸子です。」

(ii) 苗字だけ： 例) “My name is Smith.” 「渡辺です。」

(iii) 苗字と個人名： 例) “I am John Smith.” 「渡辺幸子です。」

(iv) タイトルと苗字： 例) “I am Dr. Smith.” 「\*渡辺先生です。」

上の例から分かるように、アメリカの場合には、4通り全て可能なのに対し、日本の場合には、「苗字だけ」か、「苗字と個人名」の2通りに限定されている。

第二点は、個人名で呼び捨てにされる頻度である。アメリカの場合、家族外の人から、個人名(例：*Adam, Bill, John*)で、呼び捨てられる機会は、その人の交際範囲が広がるについて、増加することが期待されるが、日本の場合は、逆に、上昇しないというより減少する可能性があるとして述べている。

パンは、呼び捨てに関してさらに言及しているが、ここでは、「-さん」づけで呼ぶかどうか考えずに、個人名を使用するかどうかについて注目して考えてみたい。パンの主張するように、実際、日本では、個人名は、両親、年上の親族(例えば、祖父母、叔父、伯母)からは、呼び捨てか、「-ちゃん」か「-くん」づけで呼ばれることが多いだろう。他に呼び捨てで呼ばれるのは、同年代の友人からであると思われる。また、年下の親族(いとこ等)からは、「-ちゃん」、「-くん」または「-さん」づけで呼ばれることが多いだろう。

ここで大切なのは、呼び捨てかどうかというより、個人名が使用されること自体である。筆者の体験から、個人名で呼ばれたことがあるのは、近親者以外では、小さい時から知っている近所の知り合いで年上が多いが、かなり年下でも親しいと感じられるならば、個人名に「-ちゃん」付けで呼ばれることもある。それ以外は、友人でも「-さん」づけの苗字で呼ばれることが多い。日本では、社会に出て、勤め始めると、勤め先や、公の場では、恐らく個人名が使用される機会は、ほとんどないように思われる。それとは対照的に、アメリカでは、最初、苗字で呼ばれても、すぐに個人名で呼ばれるようになることが多い。

日本では、年上には、普通は、個人名を使用しない。姓を使用するか、年上の親族には、「親族呼称(おじいさん、おばさん、お姉さん等)」や、目上の先生、先輩、師匠には、「先生、先輩、親方、師匠」と呼ぶことが一般的である<sup>18)</sup>。パンは、アメリカと日本の違いを次のように述べている。

…年上の人あるいは上司を名前で呼び捨てするのは、アメリカでは許されるが、日本では絶対と言っていいほど許されないのである。アメリカのカーター大統領に対して、ホワイト・ハウスのスタッフは“Jimmy”と呼んでいたそうだが、日本の総理大臣に対して、苗字なり名前なりで呼び捨てするスタッフはまずいないと思う。この差は大きな差だと思う。  
(パン 1982:80)

以上から、アメリカと日本では、個人名の使用頻度が、極端に違うということが言える。アメリカでは、個人名が頻繁に使用されるが、日本では個人名ではなく、苗字の方が使用されることが多い。しかしながら、日本とアメリカは、個人名については、両極にあると考えるのは誤りである。ここで注意すべき点は、日本では、身内や、小さい時から親しい人々や、同年代の人々の間では、個人名が専ら使用されているということであり、個人名の使用範囲が制限されているとみなされるべきである。従って、アメリカと両極をなす例として、個人名の使用が禁じられている文化が考えられる。このような文化では、個人名はタブー視されている。そこで、5.2 では、名を呼ぶ禁忌について考察する。

## 5.2 名前のタブーについて

豊田(1988)によると、邪悪な力から逃れるために、名を秘匿する風習は、世界各地でみられるという。また、実名が使用できない場合には、別の名で呼ばれることが必要となる。

人間生活にとって名前を秘密にすることは、すなわち、代称を用いるということである。どうしても、実名を口にしなければならない時は、たとえば、中央オーストラリアのアボリジニーは、ささやき声でいったという。それは、魔法使いや悪霊に知られたくないからであった。このために、古代エジプト人やバラモンの子供たちにも、代名、通称の制度があった。これは、アザナなどとして、古くから、日本、中国にもあり、現代人の深層心理のどこかにも、反省されるものである。このような代称制度の根源も、やはり、一つのタブーが原因をなしている。(豊田 1998:65)

エジプトでは、良い名前と悪い名前があり、後者が常用された(小馬 1997:39)。日本でも、平安期の貴族女性は、実名敬避の風習が強く、実名はほとんど知られていない(豊田 1988:65)。例をあげると、『蜻蛉日記』の著者は、娘時代は「藤原倫寧

の女」,結婚後は「藤原兼家の妻」,子供ができてからは「右大将道綱の母」と呼ばれ,著者自身の名前が使われていない。また,ケニアのキプシギス人は,現在でも名前を生命の一部としてとらえているので,生きている人の名を子供に付けると死亡すると考えられている(小馬 1997:37)。

宮岡は,エスキモーでは,亡くなった人の名前は,その名前が新しく生まれた子供に付けられるまで,声に出して言うてはいけないというタブーがあると報告している。また,生存中の人も実名を言うことをためらうことがあると次のように述べている。

...南西アラスカのヌニヴァック島などでは,子供のうちは,年長者,家族,遊び仲間から実名でよばれる。しかし,十代のある時期(女の子は初潮)以後,周囲の人びとはいっさい実名でよぶことをやめる。したがって,小さな子供は,じぶんの両親その他の大人の実名はしらない。まれに耳にしておぼえていくことはあっても,用いることは,許されないという。そのようなところでは,ふだん呼びかけたり,言及したりするのは,実名はつか<sup>あだな</sup>わず,各人のもっている<sup>あだな</sup>綽名を代用するか,世界各地の民族にみられるテクノニミー(「一の父,一の母」のように子供の名前を軸にして親を呼ぶ)に頼るなどの方法をとる。(宮岡 1987: 172-3)

また,北沢(1997:46-7)によると,アメリカインディアンのホピ族は,新生児の名は,目にみえない守護霊を表すと信じられている。子供の出産が近づくと,他の氏族から儀礼父母を依頼し,名付け親になってもらう。実名は秘密とされ普通は教えてもらえない。そこで,日常では,渾名(以前は,座る雄牛,赤い雲,現在は,合衆国市民としてメアリーなど)で呼ばれる。また,死者の名を言う事も厳禁である。

### 5.3 使用制限

5.1 と 5.2 から,個人名の使用頻度については,制限の程度に伴う相違点が認められる。また,タブーと言っても,文化によってその実態が異なる。例えば,エスキモーでは,ある年齢までは個人名の使用が許可されているが,それ以降は,厳禁されるという制限である。他方,ホピ族は,実名を声に出す事は常にタブーとされている。従って,個人名の使用について,制限の度合いが高いか低いかという視点で,(31)のように,大きく次の3文化に分けることが可能である。

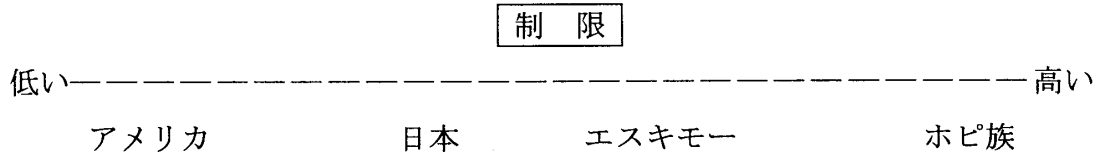
(31) 文化 A- できるだけ個人名を使用する。(アメリカ)

文化 B- 制限付きで個人名を使用する。(日本, エスキモー)

文化 C- できるだけ個人名を使用しない。(ホピ族)

次に、「制限」の度合いによって、国(民族)の位置を確かめてみると、(32)のようになると考えられる。

(32) 個人名の使用に関する制限の程度



アメリカは、できるだけ個人名を使用する文化であるので、制限はかなり低いところに位置すると考えられる。日本は、使用範囲(身内等)に制限があり、身内や、それに準じる人々にだけ使用される傾向がある。エスキモーは、ある年齢までは、制限がないが、その後は厳しい制限が課されるので、日本より制限の程度が高いと考えられる。制限の度合いが一番高いところには、実名を常に秘密にするホピ族が属する。

## 6 結論

本稿は、個人名の型と機能について、日本語を中心に他の言語(文化)と比較しながら考察した。限られたデータを使用したため、推測の域を越えないが、次の特徴が個人名の型に関する普遍的な傾向の候補であると考えられる。

(33) 一般的に、不吉な印象を与える名は付けない。不吉で縁起の悪い名を付ける場合もあるが、それは、不幸から身を守るための手段とみなされる。

(34) 名の受け継ぎは、祖父母から取られる傾向がある。

(35) ある程度、男女で名の型には差をつける傾向がある。

また、日本語に特有であると考えられる特徴は、以下である。

(36) 日本語の名付けには、「文字」が重要な役割を果たす。

(37) 日本語の最近の傾向は、音韻的(モーラの長さ)には、男子の名の方が長い傾向があり、文字数では、女子の名の方が長い傾向が認められる。

最後に、個人名の機能(使用頻度)について考察し、アメリカ、日本、エスキモー、ホピ族の順に、制限の度合いが高くなることを示した。

## 註

- 1) 聖書に由来するアメリカの命名法の変化が良い例であろう。木村(1980: 81)によると、18世紀から19世紀にかけて、聖書に由来する名前が激減したという。例えば、1770年のハ

ーバード大学の一年生の名前の72%が、聖書から取った名であったが、100年後の1870年には、その割合が逆転して、78%が聖書とは無関係の名であった。

- 2) 東外大研(1998a:359)及び木村(1980:29)を参照。
- 3) 泉沢(1994:218)を参照。
- 4) これ以降、明記されていない場合の情報は、東外大研(編)(1988a)(1988b)に依っている。
- 5) 森岡は、これらの項目は、永野賢の「子どもの名づけの心理」(『言語生活』92(1959)), ならびに『言語生活』の編集氏のアンケート調査(「名づけのために知っておきたいこと」: 『言語生活』138(1963))に基づいており、その結果を調整したものであると断っている。
- 6) 早津(東外大研 1998b:221)は、戦争中には「勝、進」を含む名が、東京オリンピック時には「聖」を含む名前が増えたことを指摘している。
- 7) 早津(東外大研 1998b:221)は、親や祖父母の名の一部をとって名付け、家族間で同じ漢字が共有されている場合もあると次の例をあげている。  
例:「知和, 文和, 義和,」「美紀, 美奈, 美恵」
- 8) 子音の数が14だと考えている学者もいる。金田一『日本語(上)』(1988:97)を参照のこと。
- 9) 愛称に関する語用論については、Wierzbicka(1992: chapter 7: “Personal Names and Expressive Derivation” (pp.225-307))を参照のこと。英語、ロシア語、ポーランド語について詳細に検討されている。例えば、Wierzbicka(1992: 230-1)によれば、英語の個人名とその愛称は、含意される意味に従って、次の八種類に分類されている。
  - i) 標準男性短縮形 例: Tom, Jim, Bill
  - ii) 標準女性短縮形 例: Pam, Kate, Sue
  - iii) 子供に関連ある *-ie/-y* 例: Jimmy, Tommy, Pammie, Ruthie
  - iv) 標準女性短縮形 *-ie/-y* 例: Debbie, Penny
  - v) 男女共用 *-y*形 例: Terry, Jerry
  - vi) 非標準短縮形(*-ie/-y*からの逆成) 例: Deb (Debbie), Pen (Penny), Sal (Sally)
  - vii) 無標の男性及び女性完全形 例: Ruth, Clare, Andrew
  - viii) 有標の男性及び女性完全形 例: James, Deborah
- 10) 例は田中(1996:186)を参照した。
- 11) 明治安田生命は、加入者を対象に1989年度より「生れ年別の名前調査」を行っている。サイトは、以下の通りである。

(<http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/etc/ranking/>)



尚、本稿で使用したデータの調査数の内訳は、保険契約約 1203 万件で、その内、2004 年生れの男の子は 4,861 人、女の子は 4,419 人である。

- 12) 「駿」という漢字は「良馬」だけでなく「すぐれた人」も表す。
- 13) 早津（東京外国語大学語学研究所, 1998b: 221）、円満（2005）を参照のこと。
- 14) 男の子の名前の 3 位には、2 つの名前が、7 位には 3 つの名前が同数のために、4 位と 8, 9 位がない。同様に女の子の名前には 2 位と 6 位がない。
- 15) 女の子の名前は、一つのランクに複数の名前が同数あったために、全部で、107 種類の名前が挙げられている。
- 16) 「々」は、正確には、漢字でなく、漢字の繰り返しを示す記号で、「繰り返し符号」、「踊り字」、「送り字」などと呼ばれる。
- 17) 全米の大学白人卒業生名簿に基づくリスト（木村 1980: 95-101）を参考に、1975 年度の上位 50 位までの男女の名前で 3 音節以上を調べてみると、男性は、8 種類の名、女性は 14 種類の名が見つけられた。このデータは、アメリカでは、女性の名が音韻的に長い傾向があるという推測を裏付けるものと考えられる。
- 18) 早津（1998: 219）を参照のこと。

## 参考文献

- 泉沢久美子 1994. 「アラブ・イスラーム：父祖の系譜を語る名前の連ね」. 松本・大岩川（編）215-221.
- 梅田修 2000. 『ヨーロッパ人名語源事典』 大修館.
- 円満字二郎 2005. 「「人名用漢字」顛末記」. 『言語』 3 月号 56-57.
- 小川了 1997. 「子どもの名づけ」. 『言語』 4 月号 52-57.
- 北沢方邦 1997. 「<<名づけられたもの>>と<<名づけられぬもの>>」. 『言語』 4 月号 44-47.
- 木村正史 1980 (1994<sup>3</sup>). 『英米人の姓名』 鷹書房弓プレス.
- 金田一春彦 1988. 『日本語（上）』 岩波新書（新赤版）2.
- 小馬徹 1997. 「命名と禁忌」. 『言語』 4 月号 36-41.
- 寿岳章子 1979 (1990 新装版). 『日本人の名前』 大修館書店.
- 鈴木均 1994. 「イラン：自信罹災者のリストにみる名づけの変遷」 松本・大岩川（編）241-249.
- 鈴木裕子 1994. 「モンゴル：重視される多様な「名」」. 松本・大岩川（編）76-83.
- 田中克彦 1996. 『名前と人間』 岩波新書（新赤版）472.
- 丹埜靖子 1994. 「ケニア：もらった名前・選んだ名前」. 松本・大岩川（編）281-292.

- 東京外国語大学語学研究所 (東外大研) (編) 1998a. 『世界の言語ガイドブック 1 (ヨーロッパ/アメリカ地域)』 三省堂.
- 東京外国語大学語学研究所 (東外大研) (編) 1998b. 『世界の言語ガイドブック 2 (アジア/アフリカ地域)』 三省堂.
- 豊田国夫 1988 (1989<sup>2</sup>). 『名前の禁忌習俗』 講談社学術文庫 847.
- 早津恵美子 1998. 「日本語」. 東外大研 (編) (1998b) 55-62.
- パン F.C. 1982 (1993<sup>5</sup>). 「呼称の社会学」. 『日本語比較講座 5 : 文化と社会』 61-82, 大修館書店.
- 松本脩作, 大岩川嫩 (編) (アジア経済研究所企画) 1994. 『第三世界の姓名』 明石書店.
- 宮岡伯人 1987. 『エスキモー: 極北の文化誌』 岩波新書 (黄版) 364.
- 森岡健二 1977 (1992<sup>2</sup>). 「命名論」. 『岩波講座 日本語 2 : 言語生活』 203-248, 岩波書店.
- 八巻佳子 1994. 「中国: チベット族の姓名」. 松本・大岩川 (編) 55-62.
- Crystal, David. 2003 (2nd edition). *The Cambridge Encyclopedia of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Wierzbicka, Anna. 1992. *Semantics, Culture, and Cognition: Universal Human Concepts in Culture-Specific Configurations*. New York/Oxford: Oxford University Press.